

拓水

題字は 県漁連三浦会長

11月号
No. 134

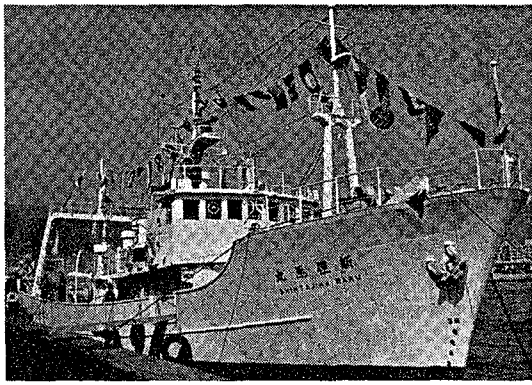
発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産改良普及協会
神戸市兵庫区新在家町 123
発行人 三浦清太
TEL 6685・66954
編集 拓水編集委員会
発行日 毎月 30日
一部10円
昭和42年10月18日
第3種郵便物認可

県水試調査船

新但馬丸竣工

去る本年五月二十四日、清水市三保造船所において建造を開始した県水試日本海面調査船「新但馬丸」(金井知事命名)は、このほど完成し十月二十一日、その雄姿を神戸港にあらわした。

前調査船の旧「兵庫丸」は老朽化し、昭和四十年に廃船、その後兵庫県漁業公社所属船「第一兵庫丸」(九九・五九トン、三〇馬力)をチャーターして調査試験を続けていたが、本年に入って新しく建造の運びとなり、その後工事は順調にすすんで、この度立派に完成したものである。



兵庫県立水産試験場 新但馬丸 兵庫県
漁業調査船 SHIN TAJIMA MARU

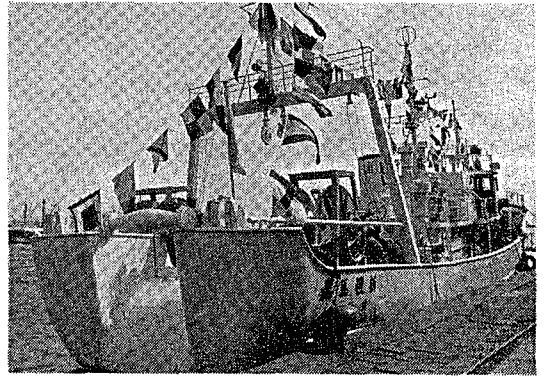
株式会社 三保造船建造

起工 昭和42年5月24日
竣工 昭和42年9月7日
竣工 昭和42年10月15日

船型	船尾機関型一層甲板船	主機関	阪神内燃機製 過給機付単動4サイクルディーゼル 500 P S × 400 R P M 1基
資格	第三種漁船	推進器	3翼可変ピッチプロペラ 1基 直径1,600φ
全長	30.50M	速力	11ノット
登録長	27.00M	航続距離	2,500マイル
垂線間長	26.50M	魚船	38㎡
型中	6.40M	発電機	神鋼電機製 三相交流自動式発電機 225 V × 60 C × 35 K V A 2基 (48 P S ディーゼル駆動、並列装置付)
型深	2.75M	操舵機	川崎重工業製 P C - 80 A 型 0.75 K W 電動油圧 1基
計画吃水	2.30M	揚錨機	中谷鉄工製 17 T × 11 M / M I N 1基
イニシャルトリム	0.50M		
総噸数	118.67 T		
燃料油艙	23.50 M ³		
清水艙	7.04 M ³		
乗組員	調査員 2名 乗組員 17名 計 19名		

前記のとおり県水試所属後、新しい雄姿を披露する日本海面調査船「新但馬丸」ため、同二十一日午前十時「(一八・六七ト)」はより、関係者多数出席のこの三保造船所において、上、神戸港中突堤ではなや竣工、さる十月十八日清水かにレセプションが開かれ港より明石港へ処女航海のた。

その後同船は直ちに本拠の但馬香住港に向け回航、十、月末頃から本格的な日本海での活動を開始した。同船て成見網漁業、いか釣漁業、流し網漁業、延縄漁業などの試験、調査を行ない、かつ海洋調査研究に従事することを目的とし、とくに船尾揚網式底曳船型(右写真参照)に建造されている。



曳船型(右写真参照)に建造されている。

水産資源の保護と管理

魚を沢山獲るための努力に較べて、魚を増やすための努力や魚の数を増やすための努力があまりにも少ないように思う。

ある朝、播磨沿岸で釣れた一匹の魚は、あるいはその昔淡路の保護水面で御世話になったことがあるかも知れない。若しそうだとしたら、淡路の努力に感謝して人知れず金一封を送り届けるほどの人はいない。それどころか、この水面に魚を盛り来ると心得者が時々あると聞いている。

酪農業者が乳牛を大切に飼育するのと同じように漁業者は水産資源を何より大事に扱わなければならない。言わなければならないことである。淡路の保護水面に留ったことものを造れば良いと思う。さて、資源の保護が保護水面であれば資源増殖は栽培漁業と云うことになる。各地にクルマエビの稚仔やイナメ等を放流していることは御承知のとおり、このクルマエビの稚仔は人工産されたもので放流量は年々増加し、恐らく昭和45年には本県で約一〇〇万尾の放流が可能となりその効果も相当なものと期待される。

しかし保護水面にしても栽培漁業にしてもほんとならぬ。効果の点で、保護水面や栽培漁業によって最終的に何れの誰が、何時どの位の利益を得たかが実によく判らない。誰であつても自分達が一生懸命保護して大きくなった魚が何時のまにか他所に出て行ってしまうの誰かに獲られて仕舞うらしいとなれば、どうしてもそこに一抹の不平と疑問は残る。

苦労しても稚魚を保護し放流をして資源を増加をはかることは勿論大事なことではないが、それだけでは漁業は成り立たない。肝心の漁獲のことがあつた。増した資源を如何に有利に獲るかを併せて考えなければならぬ。

資源の保護をたててい

り考えずに獲ることは、かりにヒタ走るのは、やがて行き詰りに到着することを意味する。自分達が増した資源を獲るからには、その資源の状態が今どんな具合になっているかを常に知って若し減っているようなら早速漁獲するを休むとか、或は人工生産した稚魚を大量に放流させるとして資源を回復させるとかして資源を回復させるとかして

漁業組合 合併コーナー

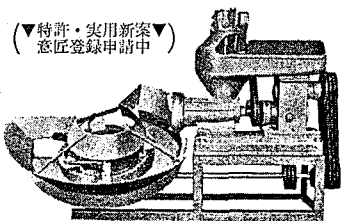
なぜ 合併した方が良いのか
組合員の皆さん
よく考え・よく理解して
合併に協力しましょう。

- ・獲った魚を有利に売るために
- ・組合からドンドンお金が借れるように
- ・組合の信用を増して、良いものを安く買うために
- ・優秀な職員をやとえるように
- ・漁業のいとなみや、魚のとり方についてドンドン研究できるように

大きくしょう！
組合を

養魚の調餌から造粒そして投餌まで

(▼特許・実用新案▼)
意匠登録申請中



(船用カリン付・陸上モーター付)

この機械がします

最近の人工飼料の需要の増加に伴い、生魚と人工飼料をよっぽど練り合せ、造粒装置をチャップで固型にして投餌する時代となりました。この一連の作業をこの機械が行ないます。

(此一編次第カタログ贈呈いたします)

ミートチヨッパーとプレート、ナイフの専門工場



株式会社 平賀工作所

神戸市長田区水笠通2丁目70番地
TEL 代表神戸 62-1527

10~11月の漁海況 (内海側)

海況

大阪湾、播磨灘における水温は、9月中旬まで例年より高目を示していたが、以後の降下は早く、10月上旬の観測結果では両海域とも22~24°Cとなり、例年水温を示すに至った。また、上下層の水温差もほとんどなくなり、両海域の北部では上層の方がやや低目を示す秋型となり、9月中~下旬には、上下水塊の混合が盛んであった。

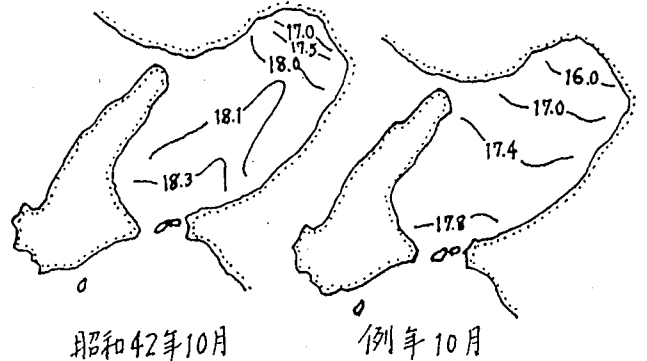
一方、両海域の塩素量は、8~9月の霖雨のため、河川水の流入勢力はきわめて弱く、上記の対流現象も作用して例年よりかなり高目となり、とくに大阪湾では、北東域の低温、低かん水塊がごく沿岸に圧縮され、神戸~岸和田を結ぶ線以南は表層でも18%以上の水塊となっている。図に示すように、例年の塩素量分布とは大いに異なり、紀伊水道系水の大阪湾への侵入が顕著といえる。したがって、同湾におけるプランクトンも外洋性の種類が多く出現しているが、播磨灘、大阪湾ともに植物プランクトン(主に硅藻類)の増量が目とめられた。なお、両海域の11月上旬の水温は18~20°Cに低下の見込で、塩素量は例年より高目に推移するものと思われる。

漁況

カタクチイワシ 9月以降依然魚群量は少なく、アゴ、サバに混獲される程度、しかも魚体は90~130mmの大羽が主体であり、小、中羽群はほとんど漁獲されてない。10月の産卵調査結果によると、例年同様の大阪湾ではかなりの浮游卵が採集(1曳網当り6.3粒)されるが、今年はずか3粒(一曳網当り0.2粒)採集されたのみで、これによっても両海域における魚群量の少ないことがわかる。10月中旬の和歌山県水試の情報でも紀伊水道東部におけるまき網では、ほとんどアジ、サバが主体で、シラス漁も不振のため現状では新しい魚群の補給は望みづらい。ただ、播磨灘西部からの内海発生群(小、中羽)の出現が期待されるが、量的には少ない模様。

アジ、サバ 10月に入って両種とも量的に減少傾向を示しており、大阪湾の水温降下は例年よりやや早いので、漁場は次第に南偏するものと思われる。

マダコ 9月上旬から回数実施された、クモ稚餌採集調査結果によると、今年秋期のマダコの産卵期は、9月上旬~10月中旬の間で、その盛期は9月中~下旬と推定され、10月上旬には15mmに成長した底に沈着前の稚マダコも採集された。しかし、稚マダコの量の多少は今のところ不明である。(浪山)



海上交通法制「整備の必要性」

昨年英国で大型タンカー船の事故により英国はもとよりフランスにまでおよび、関係海面は「油流出」による大被害をこぼり、英、仏海軍まで出動し、困をあげて、事故後の対策にあたり、重大ニュースは「生存したこと」をいいます。

我が国でも、昨年和歌山県での外国タンカー船の事故、本県内海関係でも「近時「油」による漁場被害は特にいちぢるしく、「油」は海を汚染する場とする水産関係者にとって「最大の敵」であります。若し「油」は海を汚染する場とす「でかかると大被害が再び起った場合関係者は一体どうなるのか?想像もできない大悲痛が生じることと思われまます。

近年わが国経済の著しいすすんでの海域におけるの海域をカバーすることが、伸長に伴い、海上輸送関係、衝突予防のための一般原則、出来ない等の問題があり、はとみに活発化し、港とを定めたものである。早急に陸の交通法に匹敵する港に通ずる狭水道等におお多数の船舶がふくまざる。海上交通に関する法ける交通量も著しく増大し、等特殊な海域における交通制を準備する必要があると船舶は年々大型化、高速化の安全と円滑の確保をこれ。云う運輸の考えでありし、特殊な船舶(ホババー)のみに期待することは困難です。

小型船舶操縦士

講習並びに臨時試験実施のお知らせ

水試では、かねて本年度の漁船運航技術修練会下半期の開催計画を検討していたが、神戸海運局とも折衝した上で、毎次のとおり予定し、洲本農林事務所をはじめ地元関係者と協議の上、準備をすすめている。

実施場所	講習期間	臨時試験期日(予定)	予定人員
洲本市山良町	試験開始前一周間	S42.12.1	100~150名
津名郡北淡町		S43.1.21	100~150名

(参考)

小型船舶操縦士試験

一船舶職員法抜萃一

1. 受験資格

試験開始期日の前日までに、17才9ヶ月に達する者で、船舶に1年以上乗船履歴を有する者。(ただしこの乗船履歴には試験開始期日の前5年以内のもの含まれていなければならない。)

2. 身体検査基準

- (1) 視力
5メートルの距離で、一眼は0.5以上、他眼0.4以上。(裸眼)
- (2) 紅緑色盲または青黄色盲でないこと。
- (3) 聴力
両耳とも30センチメートル以上の距離で明らかに秒時計(ストップウォッチ)の秒時音をききとることができること、または5メートル以上の距離で囁語を弁別できること。
- (4) その他疾病または身体障害があっても軽症で勤務に支障をきたさないことと認められること。

3. 学科試験

筆記試験で2時間、出題される問題が100題あまり決っており、そのなかから10問がえらばれる。解答はヒラガナ、カタカナなど、なにを使ってもよいがわかりやすく書くこと。(水試指導課)

ため木県でも明石海峡が狭水道に指定される第一候補の備前なので九月二十四日に明石海峡対策協議会(会長神戸市西部漁協長山田厚敏)を結成し目下関係漁民の与論を結果し、今後の対策につき中央関係機関に漁民の「権利」を強く主張して行きます。(船水)

恒例の漁婦人部大会は来る十一月十四日(火)県漁協婦人部連合会と県の共催にて左記要領により開催されることになりましたので御知らせいたします。

二、日時 十一月十四日(火)
自 午前二時(受付九・三〇より)
至 午後一五・三〇分

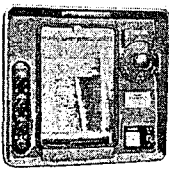
三、主な内容
当日は主催者挨拶、大会宣言などから始まって講演(講師生活評論家水島照子)、体験発表と多様なプログラムを用意している。

(注) 当日受付にて講師水島照子先生の著書「楽しい生活設計」(定価三五〇円)を用意しておりますので希望の方にお知らせいたします。なお希望者多数の場合は後日ご送付致します。

婦人部大会の開催についてお知らせ

二、場所

水産会館四階大会議室



新鋭機出現
ニューフィッシュグラフ
NF-12 魚群探知機

NEC
の技術を誇る
画期的な漁業用魚探機



海上電機株式会社

本社 東京都千代田区神田5町1-19 電話 東京 (291)2611-3・8181-3
神戸営業所 神戸市生田区明石町32(明海ビル) 電話 (39)4301代・(33)3706 ビル交換

ヨボロ マリンディーゼル

いつも漁場に一番のり

- 主機用 4~1000馬力
- 補機用 8~3000馬力

国つくりから米つくりまで
久保田鉄工

●3MKE形/35馬力

漁場と市場を結ぶ!

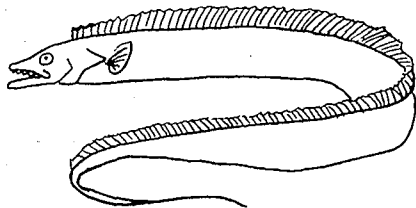
(新製品)

- PM形/3馬力~4馬力
- 船舶主機用 3~800馬力
- T形/10馬力~20馬力

ヤンマーディーゼル株式会社 / <本社>大阪府北区茶屋町62番地



(6) たちうお (太刀魚)



(原色動物大図鑑より)

南日本に多く棲む魚で北海道から朝鮮周辺海域、紅海、濠洲周辺、大西洋に分布し、我が国ではとくに瀬戸内海が産地として有名である。地方によって呼名はいろいろで、仙台で「はくなぎ」または「はくうお」、小名浜で「たちのよ」、東京で「たちのうお」または「たちうお」、和歌山県で「たちうお」または「たちお」、高知県で「たちお」、室戸岬、

高知県須崎で「たち」、関西、四国、九州で一般に「たちうお」、明石、鳥取で「たちお」、神戸、福岡で「たち」とそれぞれ呼ばれている。体形は平らで細長く腹鰭もなければ尾鰭もなく、尾端は鞭状をなしている。大体全長1.3m~1.5m位まで大きくなり体色は銀白色で釣上げた時などは真珠の光沢を凌ぐ美しさで、この皮膚の粉状物質は人工真珠の光沢を付ける原料とさえされている。

またこの魚は泥底の中層または下層を常に群をなして遊泳し夕方及び夜の明方などに上層に浮んでくる習性もち、その時が釣の絶好期で、主に曳網によって漁獲されている。餌料は従来「どじょう」の一匹刺であったが、近年農薬影響により入手困難となり最近専ら擬餌を使用するようになったが、いわゆる食いの悪いような時など「とらはず」「べら」などの小魚を主針につければよいようである。本県の漁獲量はわずかで、好・不漁年が極端であったが、昭和40年より急激に増加傾向を示し特に本年は好漁で明石地方の曳網で中型魚を1日50~60尾程度、漁獲が続いている。主な漁場は別図に示すように播磨灘東部(かんたま~鹿の瀬~室津の瀬)、大阪湾西北部(塩屋沖~横瀬)、鳴門南・北部、出良瀬戸南部、沼島周辺で毎年8月下旬



漁場図

~9月上旬頃より漁期に入り11月上旬頃まで続く。またこの魚によく似たものに「おしろいだち」があるが、これは印度洋、支那海から山口、朝鮮附近に分布し、朝鮮西海岸にはこの種が特に多く漁民は粉粧魚と呼んでいる。「たちうお」はいわゆる熱帯性の魚であるが、三浦三崎方面でもかなり獲れ東京市場にも出回るが、東京ではその体面に密着している銀粉を気味悪く感じて多少下魚と考えているようだが、さすがは食道楽の大阪のこと、年中うまいものとして(とくに秋は味がよい)1に塩焼、2に煮付と料理方法はバラエティーに富んでいる。卵は粒がやや大きく舌の上ののせるとざらざらしてあまり感心しない。(岩井)

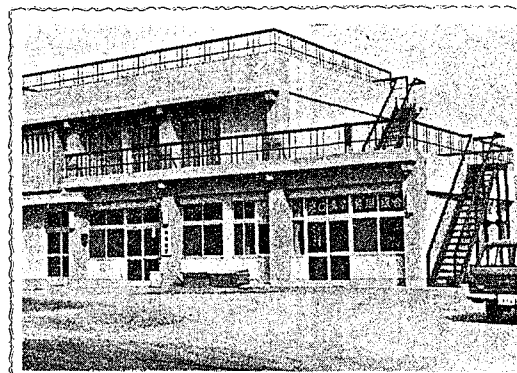


保護水面にむらがるイサギの稚魚
—淡路西淡町浜沖—
(神戸新聞提供)

魚類の聴覚について

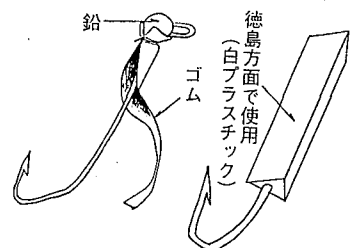
魚類の音に対する感覚器官として考えられるものは他のほ乳動物と同様に耳である。しかしほ乳動物のようにそこから見てわかる外耳は欠けていて、内耳(体内で音を感じる役目をする)があるだけである。この内耳の中に「耳石」という石灰質で出来た小丸状のものがあり、これにより音を感じることができる。このほかに魚類には魚体表面の中央部に側線器がよく発達しているものが多いがこれも一種の聴覚器と考えられている。この側線器は振動数の低い音を感じするのに役立っている。

魚類が感じることができる音は魚種によってかなり違うようであるが、一般的にいうと振動数が毎秒16~13,000サイクル(人間の場合は16~20,000サイクル)の範囲内のものである。したがって我々が普通聞える音は魚類も殆んど全部聞こえることになる。また魚種によってある特定の周波数の音を好むことも推定されており、この音を利用して魚群を誘致することも考えられている。(管)

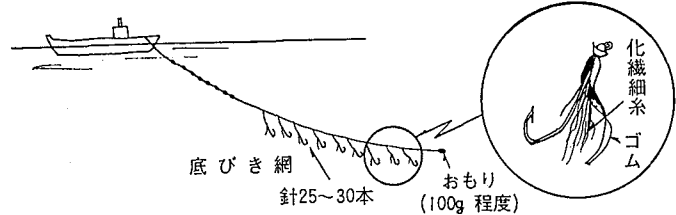


炬口漁協フィッシングセンター完成
洲本市炬口漁協組では、かねて観光漁業に着目、フィッシングセンターの経営を検討していたが、去る十月一日写真のような立派なものが完成営業を始めた。

(建設費1,300万円、343平方米、1階食堂、会議室、事務室、2階 客室大小5間)



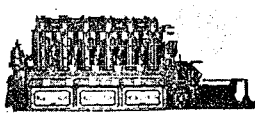
漁具いろいろ



海上電機の 魚群探知機

神戸赤ディーゼル

(使う身になって作る赤機械)

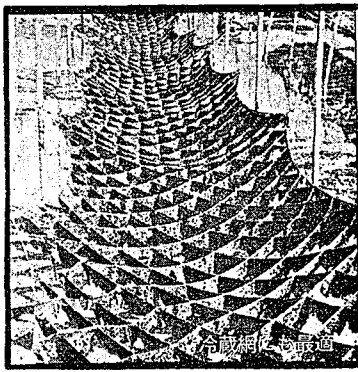


- ▶船用主機関◀
- ・低速4サイクルディーゼル 240~1,600馬力
 - ・中速ディーゼル 650・700・1,300馬力
 - ・三菱2サイクルディーゼル 1,500~8,200馬力 各種

・N623RS350PS (低速機、全長3.9米)

神戸発動機株式会社

本社及工場 神戸市兵庫区須佐野通8丁目10 TEL (078) 5031~6
支店及出張所 長崎(工場及支店) 東京、下関、北海道、仙台、今市



獲り、育て 繁栄をささえるクレモナ
Kトラレビロン
クレモナ®
収獲増大と作業の能率向上をモットーにすぐれた耐久力で勝負しています
漁網・海苔網・ロープ
倉敷レイヨン株式会社
大阪市北区梅田8 / 東京都中央区日本橋通3の1
●ますます野郎の「鮮魚用速凍機」
毎朝8時15分から8時30分まで・日本短波放送

ハマチとイカナゴ

最近はどうした訳か何でかも大々たる規模で漁業が盛んなのは、昭和41年度の漁獲量が、前年度に比し約2倍に暴落した。この暴落は、ハマチとイカナゴの漁獲量が減少したことに起因している。...

普及員だより

神戸沿岸におけるワカメ養殖の展望

農林省統計調査部の資料によれば、昭和41年度の養殖ワカメの全国生産量は3万トン余り、天然生産量の約半分に相当する。兵庫県の概況は、天然が約800トン、養殖のほうは淡路113トン、明石神戸の約220トンが主など、そこで神戸西部漁協の模様を紹介して見よう。...



秋に想う (沢田つづ)

秋の雨 去年十月ばくから賑わいの行十二人が、下呂温泉へ旅行から帰って丁度一年がたつて、東京を「はと」バスで通り、小雨にけむるきぬ川温泉をあとに、めざす日光へと車は快適に走りつづけ、

秋の雨 去年十月ばくから賑わいの行十二人が、下呂温泉へ旅行から帰って丁度一年がたつて、東京を「はと」バスで通り、小雨にけむるきぬ川温泉をあとに、めざす日光へと車は快適に走りつづけ、

白樺に 霧降る音の 聞えけり 霧しづれ 葉より散りて 中野寺、立木観音にお詣りして、東照宮へ、二つ、三つの装束、彫刻よる一つつの装束、彫刻よる一つつの装束、彫刻よる一つつの装束、

夜半の津浪 風来漁人 氷の海でのギリギリの生活の戦い、そしてその傍に悠揚とらざるのんびりと穏をこく漁夫の一団、たしかにこれらはお互いの姿が、かほりきを感じながら、互いに力を合わせてい

秋に想う (沢田つづ) 秋の雨 去年十月ばくから賑わいの行十二人が、下呂温泉へ旅行から帰って丁度一年がたつて、東京を「はと」バスで通り、小雨にけむるきぬ川温泉をあとに、めざす日光へと車は快適に走りつづけ、